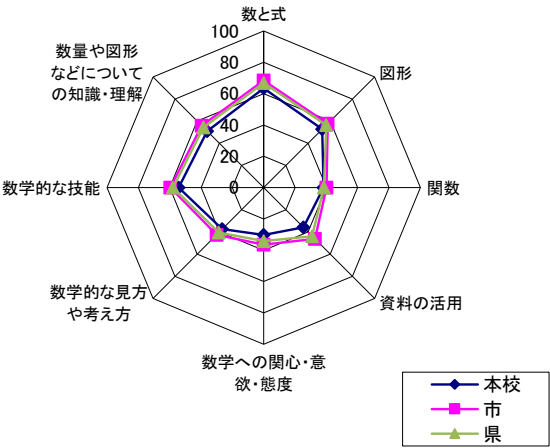


宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	63.4	68.4	66.8
	図形	52.9	57.8	56.5
	関数	38.2	40.1	38.5
	資料の活用	35.9	46.3	43.8
観点	数学への関心・意欲・態度	30.2	36.4	34.1
	数学的な見方・考え方	37.5	42.5	40.5
	数学的な技能	54.3	59.6	57.9
	数量や図形などについての知識・理解	51.0	56.0	54.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○同類項をまとめる問題や比例式を解く問題などは、県平均を上回っている。 ●負の数の減法や乗法、1次式の減法など、負の数や減法の計算において、特に県平均を下回っている。	・毎授業での反復練習プリントにより、基本的な計算方法は定着してきていると思われる。一方で、符号の見落としが多くみられる。今後も継続的に反復学習を行い、符号に注意を払いながら計算する習慣を身に付けさせたい。
図形	○直方体の直線の位置関係や三角錐の投影図においては、県平均を上回っている。 ●回転移動させたときの角度、錐体と柱体の体積の関係において、県平均を下回っている。	・図形の移動の中でも、回転移動は特に状況を想像しにくい。実際に図形を移動させたり、角度を測ったりなど、体験的な学習をより増やし、理解につなげたい。
関数	○関数においては、ほぼ県平均と同じであり、特に反比例とグラフの関係においては、県平均を大きく上回っている。 ●与えられた式から、2つの数量の関係が比例であることを判断するという問題は、県平均より低く、24.5%にとどまっている。	・関数の分野では、表やグラフ、式について学習してきたが、どれを使って考えたらいいいのか、それらはどう関連しているのか理解が不十分である。文章題から、2つの数量の関係を見だし判断する力を身に付けさせるために、2年の1次関数の分野でも1年の既習内容との関連を確認しながら、丁寧に指導していきたい。
資料の活用	○1つの資料の全体の中での位置を判断するための根拠となる値についての問題は、県平均を上回っている。 ●資料の活用の問題においては、全体的に県平均を下回っている。	・資料の活用における知識・理解や技能、そして考え方は、他教科や総合的な学習の時間などでも活用できるよう、機会を設け、学習したことを生かす場面を多く設定していきたい。